

稲・大豆作情報 (NO.8)

1. 水稲作況情報田の生育概況(8月19日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	主 稈 出葉数	SPAD	
夢しずく 佐賀市 本庄町	6/16 17.6株/㎡	本 年 平 年 平年比	出穂期 8月17日 (平年より2日遅い)				夢しずく：穂そろい期
さがびより 小城市 芦刈町	6/20 17.7株/㎡	本 年 平 年 平年比	88.5 88.5 (100)	361 457 (79)	13.2 14.8 (-1.5)	31.9 33.8	さがびより：幼穂長1.5 ～5.5cm。穂肥施用時期 過ぎている。
ヒヨクモチ 小城市 牛津町	6/28 20.1株/㎡	本 年 平 年 平年比	64.7 73.4 (88)	667 566 (118)	13.7 14.5 (-0.8)	35.7 39.7	ヒヨクモチ：最高分けつ 期

注1) 各品種 前作：麦、前前作：水稲。

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる。

2. 水稲管理

○今週の水管理

・夢しずくは、間断灌水に努めて、根の健全を図るとともに早期落水をしない。さがびより・ヒヨクモチは、稲の要水量が最も必要とされる‘穂ばらみ期’であるため灌水期間を長めにした間断灌水に心がける。

○病害虫の発生状況

・**いもち病**の発生は、平年よりやや少ないが局所的な発生が見られており、さがびより、ヒヨクモチで確認している。進展型病斑の発生が見られる圃場は‘穂ばらみ後期’（出穂3～5日前）を中心に防除を行う。

さらに、今週は曇雨天が多く多湿の予報が出ているため、紋枯れ病の発生についても注意する。

・**ウンカ類**の発生は、平年より多い傾向にある。圃場ごとにトビイロウンカの発生量には十分注意し、発生量が多い場合は防除を行う。次回の防除適期は、**8月23日頃および9月4日頃**となっている（トビイロウンカ各世代の発生予測（第4版2019/7/24作成）より）。

・**斑点米カメムシ類**は、出穂直前や出穂後畦畔除草を行うと水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、**出穂10日前までに草刈りを済ませる**。時期を逸した場合には除草しない。発生が懸念される山麓部や河川敷付近等、例年発生が多い圃場では本田防除を徹底する。

【草刈りの時期の目安】

さがびより：月末頃出穂期を迎えるためことが予想されるため、実施しないか8月20日までに済ませる。

ヒヨクモチ：8/30頃までに済ませる。

○ヒヨクモチの穂肥について ～穂肥の施用を！～

今年は、高温がつづき稲体の消耗が激しい状況である。一発くん施用圃場でも、葉色が淡い場合（SPADが40以下）は、出穂15～10日前（8/25～9/1頃）にBB602を10～20kg/10a施用する。

元肥にLPBB480を施用した圃場で、穂肥にLPBB804を施用する場合は施肥時期である幼穂2～5mmごろに施用する。

3. 大豆管理

7月上旬播種は今週～来週にかけて開花期を迎える見込み。

○病害虫～白変葉の発生はありませんか??圃場の観察を～

・ハスモンヨトウについては、発生は平年並みだが、高温で推移しているため8月下旬は平年よりやや多いと予測されている。今後は圃場の白変葉の発生状況に留意し、防除時期を検討する。また、

オオタバコガとシロイチモジヨトウについても引き続き圃場の巡回を行う。

○雑草防除

- ・イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル等で防除する。
- ・7月上旬に播種された大豆は、まもなく開花期を迎えるため、大豆バサグランの茎葉散布は控える。

令和元年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業改良普及センター

